

令和6年度事業計画書

公益財団法人熊本市美術文化振興財団

【財団の目的】

美術をはじめとした文化芸術に関する調査研究、教育普及、展覧会事業等を基礎とし、美術館等の活発な管理運営を推進することを通じて、教育や福祉の充実、産業の活性化、地域の再生など様々な分野において、文化芸術の持つ創造性を活用し、心豊かな市民生活を実現するとともに都市の活力と魅力を高める、熊本市のまちづくりに寄与することを目的とする。

【財団の目的を達成するための事業】

- (1) 美術館等における文化芸術の調査研究等事業
- (2) 美術館等における文化芸術活動の支援及び教育普及等事業
- (3) 美術館等における展覧会事業その他の文化芸術の振興事業
- (4) 前1号から3号の事業を行うための美術館等の管理運営
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

＝ 熊本市からの受託事業 熊本市現代美術館の指定管理業務 ＝

2024年4月1日-2029年3月31日（5年間）：非公募（1年目）

【熊本市現代美術館の設置目的】

市民が美術文化を享受するとともに、美術に関する知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与すること

【熊本市現代美術館の管理にあたっての基本理念】

指定管理者は、美術館の設置目的と熊本市文化芸術振興指針に基づき、管理にあたる。
熊本市と指定管理者は、熊本市の文化施策の目指すものを共有し、指定管理者がその補完を行うことができるよう、連携・協力をする。

【基本理念に基づき、財団がめざす、熊本市現代美術館の方向性】

【ミッション】

熊本市現代美術館は、多様なものを受け入れる寛容なまちと市民が心豊かに生きることができる未来を創造する。

【ビジョン】

熊本市現代美術館は、一人ひとりの市民にとって、なくてはならない「現代の美術館」をめざす。

令和 6（2024）年—令和 10（2028）年 運営テーマ

「思いがけない明日（あした）へ」

私たちは、すべての市民をウェルビーイングな「思いがけない明日へ」誘うために、多様な市民、団体、行政と連携し、美術館をハブとして多様な価値観に市民が出会い、社会が成熟するためのアートエコシステムを構築します。

【美術館の管理に関する基本的業務】

(1) 来館者が快適に過ごせるサービスの実施及びサービス向上のための工夫

- ① 基本的なサービス
 - ・利用者の平等な利用の確保
- ② 来館者へのサービス向上及び館内ホスピタリティの充実
- ③ 安定した施設管理能力の確保
 - ・職員の資質向上（研修等）
- ④ 市との連絡調整、苦情対応
- ⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策取組み 他

1. 利用者の平等な利用の確保

(1) 全ての来館者が等しく利用できる環境づくりのための方策

- ① ホームギャラリーの運営
- ② キッズサロン（まちなか子育てひろば）の運営協力
- ③ アートラボマーケットの運営
- ④ アートスカイギャラリーの運営
- ⑤ その他の館内運営

フリースペースをはじめ、いつでも快適に利用することができるよう、徹底した管理・点検を行う。

子育て世代や高齢者世代、障がいのある方、海外からの来館者に向けた対応をさらに向上させる。

2. 公の施設の効用を最大限に発揮するためのサービス

(1) 美術館広報及びセールス計画の充実のための取り組み

- ① パンフレット等作成
 - ・美術館リーフレット等の作成及び頒布
- ② ホームページ作成、管理及び更新
 - ・ICT の活用（HP・X・facebook・Instagram・YouTube 等）
- ③ 幅広い広報手段の活用
 - ・アートスカイギャラリーにおけるフライヤー設置での情報提供

- (2) 地域振興・活性化に対する取り組みと、地域・学校・その他団体・施設等との連携の方策
 - ① 中心商店街、熊本市各課等との連携
 - ② 教育機関との連携
 - ③ 市内外、県外の文化施設との連携
- (3) サービス向上と利用促進
 - ① 事業内容等に関するアンケートを常設し、月毎に集計、分析を行う。
 - ② 各種イベントにおいても、事業内容等に関するアンケートを実施し、次の事業の参考にして、美術館の利用促進を図る。

3. 市民の声が反映される管理

- (1) 利用者ニーズの把握に対する取り組みとその反映の方策
 - ・館内アンケートを常設し、美術館や事業に対する来館者の意見を分析する。
 - ・電話やメールでの意見・提案・問い合わせ等について、迅速・真摯に対応する。
 - ・外部審議員とともに取り組む中・長期的な課題の改善と解決。
- (2) 美術館の使用許可、取消、停止命令に関する業務
 - ① アートロフト、会議研修室
 - ② 美術品特別利用の使用許可に関する業務一般
- (3) 美術館の施設維持管理に関する業務
 - ① 美術館施設維持管理業務
 - ・設備運転管理業務
 - ・有人警備業務
 - ・清掃業務
 - ・AV 設備保守点検業務
 - ・防火設備定期検査業務
 - ・セキュリティ設備・監視カメラ保守点検業務
 - ・調光設備保守点検業務
 - ・放送音響設備保守管理業務
 - ・美術情報システム運用保守管理業務
 - ・ホームページ維持管理業務
 - ・図書装備業務
 - ・施設賠償責任保険・ガラス保険業務
 - ・アートロフト手動式昇降ステージ保守点検業務
 - ・アートロフトプロジェクタ設備賃貸借業務
 - ・電話設備賃貸借業務
 - ② 美術館施設修繕等業務

企画事業 1 美術品及び美術に関する資料の収集、保管、展示及び利用に関する業務

- (1) 美術品の収集に関する業務
 - ① 調査及び報告
 - ② 収集委員会の運営支援
- (2) 美術品等の保管に関する業務
- (3) 美術品等の展示に関する業務（詳細は【1】－【5】）
- (4) 収蔵品の利用に関する業務
 - ① 他館への貸出
 - ② 情報公開

展覧会の企画・開催等に関する業務

【1】メインギャラリーでの展覧会開催

《目標入場者数：101,000 人》

①	サンリオ展 ニッポンのカワイイ文化 60 年史	
	4 月 20 日（土）～6 月 30 日（日）（62 日間）	<目標入場者数：60,000 人>
	別紙のとおり	
②	ガラスの器と静物画 山野アンダーソン陽子と 18 人の画家 展	
	7 月 13 日（土）～9 月 23 日（月祝）（63 日間）	<目標入場者数：10,000 人>
	別紙のとおり	
③	ライフ 2 すべては君の未来 展	
	10 月 25 日（土）～12 月 8 日（日）（56 日間）	<目標入場者数：17,000 人>
	別紙のとおり	
④	LOVE ファッション——私を着がえるとき 展	
	12 月 21 日（土）～3 月 2 日（日）（57 日間）	<目標入場者数：10,000 人>
	別紙のとおり	
⑤	第 36 回熊本市民美術展 熊本アートパレード	
	2025 年 3 月 15 日（土）～4 月 13 日（日） （26 日間）（予定）	<目標入場者数：4,000 人>
	15 歳以上（中学生は除く）の熊本市在住、在勤、在学者、熊本市出身者ならだれでも無審査で出品することができる公募展です。（審査員：検討中）	

【2】井手宣通記念ギャラリーでの展覧会開催

井手宣通の作品を中心に収蔵作品を紹介・展示

- ・熊本市第8次総合計画展
- ・新規収蔵作品展 他

【3】ギャラリーⅢでの展覧会開催

熊本または九州ゆかりのアーティストや文化にスポットを当て、応援する展覧会

- ・CAMK コレクション 静物へのまなざし 展
- ・森内和久展（熊本出身・在住の現代美術家）
- ・よね（仮）展（米村和倫 熊本出身・大分在住のイラストレーター、デザイナー）
- 他

【4】エントランス・階段ギャラリー等への作品展示

- ① 収蔵作品の公開、子どもの作品展示
- ② まちづくり関連の展示

【5】次年度以降開催予定企画展の企画・準備

企画事業2 美術に関する調査及び研究に関する業務

(1) 郷土の特色ある美術や文化等の調査・研究

- ① 熊本及び九州に根付く芸術文化やアーティストに関する調査・研究
- ② 生人形など収蔵作品に関する調査・研究

(2) 現代美術を中心とした多彩な芸術分野の調査・研究

(3) 美術館運営や人材育成等、文化施策に資する調査・研究

- ① アートマネジメントに関する調査・研究
- ② ミュージウム I P M等に関する調査・研究
- ③ 災害時における文化施設の役割に関する調査・研究
- ④ 外部審議会運営に関する調査・研究

(4) その他市民文化の発展に寄与する調査・研究

- ① 市民参加型文化・芸術プロジェクトに関する調査・研究
- ② アートを活用したまちづくりに関する調査・研究

(5) 上記各号の調査・研究成果の発信

- ① 調査・研究によって蓄積された学術的成果については、美術館活動（展覧会・講演・論文寄稿・出版・ホームページ等）を通じて広く国内外に発信

企画事業3 美術に関する情報の収集及び提供に関する業務

(1) 国内外の芸術活動に関する情報等の収集・提供

(2) 地元の芸術活動に関する情報等の収集・提供

(3) 地元で開催される芸術活動に関する後援等

企画事業4 美術等の普及並びに市民の創作活動等の指導及び助言に関する業務

※ コロナ禍以後の方向性として、より一層の安心安全な運営を目指す

(1) 展覧会に関連する教育普及及び活動の実施

- ① ギャラリーツアー
- ② 探検ツアー
- ③ 出品作品リスト、鑑賞補助シート等の設置

(2) 芸術文化に関わる体験や創作活動の場の提供

- ① ワークショップ等の開催
 - ・アートラボマーケットでの創作活動（ミュージアムショップとの共同運営）

(3) 文化活動への支援・協力

- ① 中心商店街等との連携
 - ・ストリートアートプレックスの協働開催
 - ・上通アートプロジェクトとの連携
- ② PTA 学級活動や子ども会活動へのプログラム支援

(4) 人材の育成

- ① 地元ゆかりのアーティストの支援
- ② 音楽、ダンス等の表現者の発表の機会の提供
- ③ 美術館における実習や研修（学芸員実習等）

(5) ボランティア活動の支援

- ① 布絵本、発送、ピアノ演奏、読みがたり等

(6) 子どもや学生等を対象とした企画

- ① アートバス事業
 - ・市内小学校の1学級～1学年程度：年間5～6校程度
 - ・高齢者福祉施設（年1回程度）
- ② アートプログラム（熊本市内の小中学校等へアーティストを派遣）：年間4校程度
- ③ 1年生ようこそカードの発行（新1年生全員に子ども向け美術館パンフレットを配布。持ってくると大人一人が無料となる。ワークシート参加者に記念品プレゼント。）
- ④ 子育てひろばワークショップ
- ⑤ 美術を学ぶ中高・専門・大学生との交流

企画事業5 図録・案内書等の作成及び頒布に関する業務

(1) 収蔵品等に関する案内書、解説書等の作成・頒布

- ① アートワークの解説パネル設置
- ③ 井手宣通の紹介冊子配布
- ④ 井手宣通記念ギャラリーでコレクション展示の案内・所蔵作品展解説シート配布

(2) 展覧会等の目録を作成

- ① 展覧会毎に配布する出品作品リスト一覧

- (3) 展覧会等の図録の作成及び頒布
- (4) 年報、調査研究の報告書等の作成及び頒布
 - ① フリーペーパー「アートキッスレター」(年 5 回程度発行)
 - ② 報告書「アート・ガマダス」
 - ・講演会の載録や、研究論文などホームページにて随時掲載
 - ③ 美術館での催し物や活動の内容を、館のホームページにて公表

企画事業 6 講演会、講習会、講座、研究会等に関する業務

- (1) 展覧会等に関する講演会等の開催
 - レクチャー・カレッジ(担当学芸員による講演会・トーク)
 - ・ライフ 2 展で開催予定(調整中)
- (2) 展覧会記念講演会
 - ・熊本市第 8 次総合計画展 オープニングトーク「アートによってまちは動くか？」
 - 講師：日比野克彦(当館館長)、大西一史(熊本市長)、伊藤達矢(東京藝術大学 社会連携センター 教授)
 - 日時：4 月 3 日(水) 14:00-16:00 他
- (3) アーティスト・トーク
 - 展覧会の出品アーティスト自らが展覧会や作品について語る講演会
 - ・ガラスの器と静物画展で開催予定(調整中)
- (4) シンポジウム・研究会
 - ・シンポジウム「第 2 回 災害とアート(仮)」
 - パネラー：日比野克彦(当館館長)、池田哲也(幸田まちづくりセンター所長)(予定)
 - 日時：4 月 14 日(日) 14:00-16:00(予定) 他

企画事業 7 その他、美術館の設置目的を達成するために必要な事業(自主事業)

- 1 その他、各種団体との連携
 - (1) 市内外の美術、文学、まちづくり等の団体と多様な文化を切り口にして協力、連携体制をとることで市民に対して質の高いサービスを提供
 - (2) 行政や民間のアートを活用した事業への協力
 - ・「秀島由己男展」(玉名圏域定住自立圏共生ビジョンのうち「博物館、文化遺産等協働利活用事業」に基づく展示事業。会期：9 月 21 日—10 月 27 日(予定)。会場：玉名市立博物館ころろピア レクチャーホール。主催：和水町教育委員会、後援：玉名市、玉東町、南関町。熊本市現代美術館は監修を行う)

他

※設置目的を達成するためのモニタリングの方策

- (1) 熊本市における、市民とともにある「現代の美術館」の在り方を検証する
 - ・外部審議会を設置し、外部審議員(任期 2 年)とともに当館の課題を検証し、

中長期的な改善に取り組む

※熊本市の文化施策への連携、協力のための方策

- (1) 熊本市各課と交流を密にすることで情報を共有する
- (2) 財団が持っているネットワーク・経験を活かして「まちづくり」に関するイベントを実施する
- (3) 上質な生活都市熊本の実現に近づけるため、教育・福祉・産業など様々な分野と連携した取組を進め、アートの視点を通じて地域の問題解決に貢献する
 - ・日比野館長の「ご用聞き」（希望する各課との懇談、2021 年度より継続）

ニッポンのカワイイ文化 60 年史

60TH Anniversary SANRIO Exhibition The Beginning of KAWAII

2024 年 4 月 20 日（土）～6 月 30 日（日）

2020 年に創業 60 年を迎えたサンリオ。これまで 450 以上のキャラクターを生み出してきたサンリオの歴史は、そのまま日本のカワイイ文化の歴史と言っても過言ではないでしょう。

本展では、サンリオ創業以前の歴史から紐解き、日本が生んだカワイイ文化の成り立ちや、発展について掘り下げ、いまや世界共通語となった「カワイイ」の秘密に迫ります。

人気キャラクターはもちろん、懐かしいキャラクターにもスポットを当て、貴重な原画や資料、商品などを展示。さらに、熊本ならではのサンリオとの関わり、アーティストとのコラボ作品などオリジナル展示も予定しています。親子三代で楽しんでいただけるサンリオ史上最大規模の展覧会です。



右：山口展会場風景

下：展覧会アイコン



ガラスの器と静物画

山野アンダーソン陽子と 18 人の画家

Glass Tableware in Still Life: Yoko Anderson Yamano and 18 Painters

7 月 13 日（土）～9 月 23 日（月祝）

日本とスウェーデンのアーティストによるガラスの器と静物画、写真からなるユニークな展覧会を開催します。2018 年、スウェーデン在住のガラス作家・山野アンダーソン陽子の発案で、山野が作ったガラスの器を 18 人の画家が静物画に描く「Glass Tableware in Still Life」プロジェクトが始まりました。古くから身近なガラスという素材を媒介に、山野とさまざまな文化的背景をもつ画家たちは、言葉とイメージを通じた対話を経て作品を制作しました。ガラスの器と静物画、写真家の三部正博が画家のアトリエで撮り下ろした写真などで構成され、空間全体でアーティストたちの物語をつむぐような展覧会に、どうぞご期待ください。



右：三部正博《伊庭靖子のアトリエに佇むガラス食器》2021

左：三部正博《伊庭靖子が描いた静物画〈untitled 2021-15〉》2021（参考作品）

ライフ 2

すべては君の未来

LIFE2 : Everything is your future

2024 年 10 月 5 日（土）～12 月 8 日（日）

2020 年に開催した「ライフ 生きることは、表現すること」展では、作品を通して「弱さ」の中にある、私たちが大切にすべき価値観について問いました。あれから 4 年。私たちは、様々な地震や災害、また地球規模での新型コロナウイルス感染症を経験した時代に生きています。そして、世の中は、さらに答えのない、予測不能な時代に向かっていきます。続編となる「ライフ 2 すべては君の未来」展では、容易に答えの出ない、矛盾に満ちた状況においても、喜びや希望を忘れず、未来に向かって制作を続けてきた表現者の姿を紹介します。

出品作家：東勝吉、齋藤陽道、石川真生、キュンチョメ、レインボー岡山、分身ロボット OriHime（予定）



左上：レインボー岡山

左下：東勝吉（参考作品）

右上：OriHime

LOVE ファッション——私を着がえるとき

Love Fashion: In Search of Myself

2024 年 12 月 21 日（土）－2025 年 3 月 2 日（日）

服を着ることは人間の普遍的な営みの一つです。そして装いには私たちの内なる欲望が潜み、憧れや熱狂、葛藤や矛盾を伴って表れることがあります。着る人のさまざまな情熱や願望＝「LOVE」を受け止める存在としてのファッション。そこには万華鏡のようにカラフルな世界が広がっています。今回の展覧会では、KCI 所蔵の衣装コレクションを中心に、人間あるいは生物の根源的な欲望や本能を照射するアート作品とともに、ファッションとの関わりにみられるさまざまな「LOVE」のかたちについて考えます。展覧会を通して、服を着ることの意味について再び考えてみませんか。



上：ロエベ／ジョナサン・アンダーソン
ドレス（部分） 2022 年秋冬

撮影：来田猛

右上：コム デ ギャルソン／川久保玲
トップ、パンツ 2020 年春夏

撮影：来田猛

右下：ヘルムート・ラング／ヘルムート・ラング
ドレス 2004 年春夏

ヘルムート・ラング寄贈

撮影：守屋友樹



すべて©京都服飾文化研究財団